

■児童・生徒の学力の状況

○RSTの結果は年度を超えて基礎的読解力の項目の善し悪しの傾向に差がある。「イメージ同定」や「具体例同定」は比較的良好な結果を示していて、「係り受け解析」や「同義文判」、「照応解決」の項目で引き続き課題が見られる。

○全国学力・学習状況調査の結果では全国平均に対し、国語が若干下回り、数学が若干上回っている。英語はほぼ同じである。国語では「読むことに」課題があり、数学では「図形」や「関数」が良好が「データの活用」に課題がある。個別の問題で見た場合、数学の「累積度数の理解」が大幅に生徒率が低い3教科とも個別の問題では大幅に上回っているものや下回っているものはない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○考えを深めさせ、他の人と意見を交換するような質の高い協働的な学習の場をさらに増やしていく。

○主体的に学習に取り組み、自分の考えをしっかりとめるように、習得・活用・探究の流れを徹底する。

○生徒の思考や理解につながるような体験的な学習や問題解決学習をさらに実践する。

○生徒のみならず、教員もICT機器の活用技量を上げ、多様な学習が推進できるようにする。

○発言や文章化など生徒が得られた知識をもとにOUTPUTする場を意図的に設定する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎的・基本的な知識・技能を習得し、「板橋区授業スタンダード」を基にした「高3中授業スタンダード」を軸に思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また個に応じた指導を行い、自ら進んで学習に取り組む生徒を育てる教育を推進する。

○「高3中授業スタンダード」（目標→自分の考えをもつ→考えを深める→まとめ・分かったこと・できたこと）を継続して実践し、生徒の学力向上と教員一人一人の指導力の向上を図る。また、可能な場面で板橋スタンダードSを推進する。

○各教科で、一人一台のタブレットPCや電子黒板、実物投影機等のICT機器を有効に活用して「分かる、できる、楽しい」授業を推進するとともに、基礎・基本の定着を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生きて働く知識や技能の習得等、これからの時代に求められる資質・能力を育成する。

○指導と評価と支援の一体化（授業内での評価）を行い、学習内容の充実及び、生徒の学習意欲の向上を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教室に設置してある「目標」等の表示を活用し、どのように考え、わかったことなどを明確にしていく。 ○各教科において、可能な場面でスタンダードSの実践を進める。	○一人一台端末の多様な機能を活用する技能を習得させ、個別な学びに対して、一つの文房具のように日常的に活用する。 ○一人一台端末を活用し、考えや情報を共有し議論を深め、協働的な学習を進める。	○複数の教科領域の内容が絡むテーマの取り組みにおいて、各教科の学習内容と連携をはかる。 ○発表の場面を設定し、自己の経験や多様な知識を結び付けOUTPUTさせる。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○学びのエリアで取り組んできた「読みとく力」「郷土愛」「環境」などについて、引き続き各学校の取り組み状況の情報交換を行いながら進める。 ○「郷土愛」に関し、調べ学習をもとにした探究学習や地域を発展を念頭においた施策などを個々に考え発表する。 ○「キャリア」や「環境」、「郷土愛」に関して3年間の見通しをもった計画のもと実施する。	○7年生で年2回、高島特別支援学校との交流学习、留学生を迎えた国際理解教育、8年生で職場体験、9年生で認知症サポート講座を行い、様々な立場の人とふれあいを通し、人との関わりの中で豊かに生きることを学ぶ。 ○生活アンケートの実施や道徳の授業だけでなく、日々の生活の中で人権を意識を高め、他を思いやり、いじめの防止を図る。 ○教科の授業や給食指導を中心とした体力向上や食育を通し、健やかな体の育成	○授業プリントなど教材をClassroomにあげるにより、休んだ生徒や復習を必要とする生徒の学習に対応をする。また、授業のmeet配信は要望に対して、必ず実施する。 ○特別な配慮を要する生徒や不登校生徒などの情報を特別支援委員会を中心に学校全体で共有し、校内外の様々な組織を活用し、困難を抱える個々の生徒のニーズにあった対応を行う。